

(1) 地域連携室の体制

2014年度は事務員を1名補充し、MSW1名（室長兼務）、事務1名体制でスタートした。

(2) 地域連携

①前方連携（紹介受け入れ）

全体の紹介件数は2,111件で、近隣医療機関（三角町、大矢野町、松島町）からの紹介は1,159件であった。全体の紹介件数は前年度とほぼ横ばいだったが、近隣医療機関からの紹介が約150件減となった。

紹介元の状況を見ると、2014年度は全体の約55%が近隣の医療機関からの紹介で全体に占める割合が減少している。前述したとおり、全体数は前年とほぼ横ばいだが近隣医院からの紹介は約150件減少し、特に外科、循環器科、消化器科の減少が顕著となっている。今後はさらに詳しく分析し、場合によっては近隣の先生方へ現状を伺うことも検討したい。

また、2013年度からよりスムーズな診療体制構築のため、入院された際の紹介元への経過報告、近隣医療機関がかりつけの場合は、紹介の際と同様に入院報告、経過報告、最終報告に取り組んでいる。今回この取り組みについてアンケートを実施したところ、18医療機関中14医院から「役に立っているので今後も継続してほしい」との回答を頂いた。よって今後も患者さんの協力を得ながらこの取り組みを継続していきたい。



(3) 連携活動

①連携先訪問

2014年度は36カ所の連携先を訪問した。訪問目的としては各病院の管理部門・連携担当者への挨拶回り、当院の病床機能PR、在宅療養支援病院基準取得の為の協力依頼等であった。2014年度は熊本市、八代市、天草市の急性期病院、療養型病院、緩和ケア・ホスピス病棟をもつ医療機関など広範囲に訪問活動ができ、地域包括ケア病室・回復期病棟のPRや連携で問題がないかなどを確認することができた。次年度も同様に訪問活動を行っていききたい。

②在宅医療連携拠点事業

2014年度も継続して宇土地区医師会より在宅療養体制構築に向けた取り組みへの協力依頼があり、当院を会場

に三角・上天草地区の在宅療養支援について下記の日程で会議を行った。

2014年度は三角・上天草地区の民生委員を対象に、県の担当者や当院院長が在宅療養について研修会を開催し、また医師会の先生方と訪問看護ステーションとの意見交換会を行うなど具体的な取り組みが始まっている。今後、この事業の主体は市町村へ移行する予定だが、次年度も宇土地区医師会が担当される為できる限り協力していきたい。

(2014年度の会議等)

- ・10月14日（火）
第1回在宅医療連携拠点事業検討会議
- ・11月6日（木）
第2回在宅医療連携拠点事業検討会議
- ・2月23日（月）
民生委員を対象とした在宅療養についての講演会（藤岡院長講演）
- ・3月12日（木）
在宅生活支援サービスの為の医師と訪問看護ステーションとの連絡協議会
- ・3月24日（火）
第3回在宅医療連携拠点事業検討会議

(4) 出前・健康講座

2014年度の出前・健康講座の開催件数は87回と過去最高を記録した。依頼内容としては医師の脳卒中や認知症予防の話、腰痛・膝痛・肩こり・認知症予防等のリハビリテーションが多いが、2014年度は「自分が病気や怪我で意思疎通が難しくなった場合、家族を悩ませないよう事前に自分で治療方針を決めておきませんか？」といった事前指定書に関する講座（講師：事務長）が好評であった。依頼先の地区としてはこれまでと同じく宇城市、上天草市、宇土市が中心で、社協主催のサロンや介護予防事業、専門職団体の会議、施設職員の研修への講師依頼が多くなっている。また、介護施設から感染予防についての講義をしてほしいとの依頼も受けており、今後も講座内容の充実を図りたい。

講座開始から今年度までで講座回数は421回、聴講者数も12,635人と1万人を突破した。今後もパンフレットの随時更新や派遣スタッフの拡大、講座内容の見直し等を行い、聴講者の満足が得られるよう取り組んでいきたい。

(5) 次年度の計画

2014年度は事務スタッフの加入により、出前・健康講座の充実を図ることができ、連携先訪問も予定通り行うことができた。しかし、まだ近隣医療機関や急性期病院との連携や介護事業所や訪問看護ステーションとの関係構築に課題は残っている。次年度はMSW1名で担当することになるが、今後も地域、連携機関そして当院皆がwin-win-winとなるような関係づくりを念頭に置き、業務に取り組んでいきたい。